

第109回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成28年1～3月期実績・平成28年4～6月期見通し)

1. 調査時点 平成28年3月1日～3月7日
2. 調査対象企業数 173社中回答 173社 回答率 100.0%

| 区分 | 調査対象企業の範囲 | 調査対象企業数 | 有効回答数 | 有効回答率(%) |
|-------|------------|---------|-------|----------|
| 製造業 | 従業員 300人以下 | 39 | 39 | 100.0 |
| 建設業 | 〃 | 42 | 42 | 100.0 |
| 卸売業 | 従業員 100人以下 | 7 | 7 | 100.0 |
| 小売業 | 従業員 50人以下 | 54 | 54 | 100.0 |
| サービス業 | 〃 | 31 | 31 | 100.0 |
| 合計 | | 173 | 173 | 100.0 |

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・DI値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（TEL. 0146-22-4100、内線 621）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 173 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期（平成28年1～3月期）の業況判断D.I.は△35.2と、前期（平成27年10～12月期）比29.5ポイントの悪化となった。前年（△34.2）比では1.0ポイント下降、前期（平成27年10～12月期）調査時点での今期（平成28年1～3月期）見通し（△31.1）を4.1ポイント下回る水準となった。業種別には、製造△17.9（前期18.0）、建設△21.4（同11.9）、卸売△100.0（同△14.3）、小売△48.2（同△27.8）、サービス△38.7（同△19.3）となった。

売上額判断、収益判断D.I.は△43.4、△43.3と前期比45.7ポイント、45.6ポイントとそれぞれ下降した。

来期（平成28年4～6月期）の予想業況判断D.I.は△20.2と、今期実績比15.0ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造△28.2、建設2.3、卸売△28.6、小売△35.2、サービス△12.9と来期を見通している。

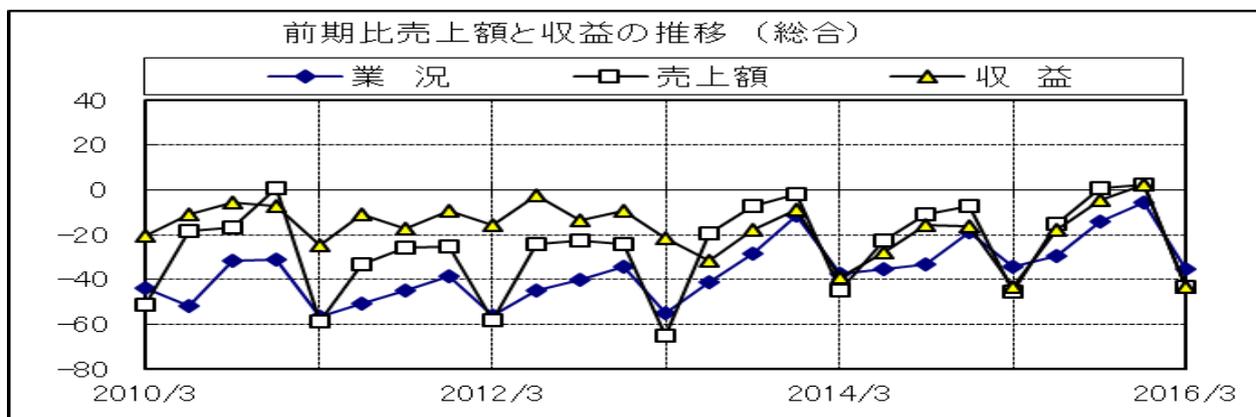
【業種別天気図】

| 時 期 業 種 | 地 区 内 | | | | 北 海 道 | 全 国 |
|--|---|---|---|--|---|---|
| | 27年 7月～9月 | 27年 10月～12月 | 28年 1月～3月 | 28年 4月～6月見通し | 当 期 | 当 期 |
| 総 合 |  |  |  |  |  |  |
| 製 造 業 |  |  |  |  |  |  |
| 建 設 業 |  |  |  |  |  |  |
| 卸 売 業 |  |  |  |  |  |  |
| 小 売 業 |  |  |  |  |  |  |
| サ ー ビ ス 業 |  |  |  |  |  |  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 好調 ←        → 低調 </div> <p style="text-align: center;">この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。</p> | | | | | | |

□ 景 況

| DI 値 の推移 | 7~9月 期実績 | 10~12月 期実績 | 1~3月 期実績 | 4~6月 期見通し |
|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 業 況 | -13.9 | -5.7 | -35.2 | -20.2 |
| 売上額 | 0.5 | 2.3 | -43.4 | -3.0 |
| 収 益 | -4.6 | 2.3 | -43.3 | -8.1 |

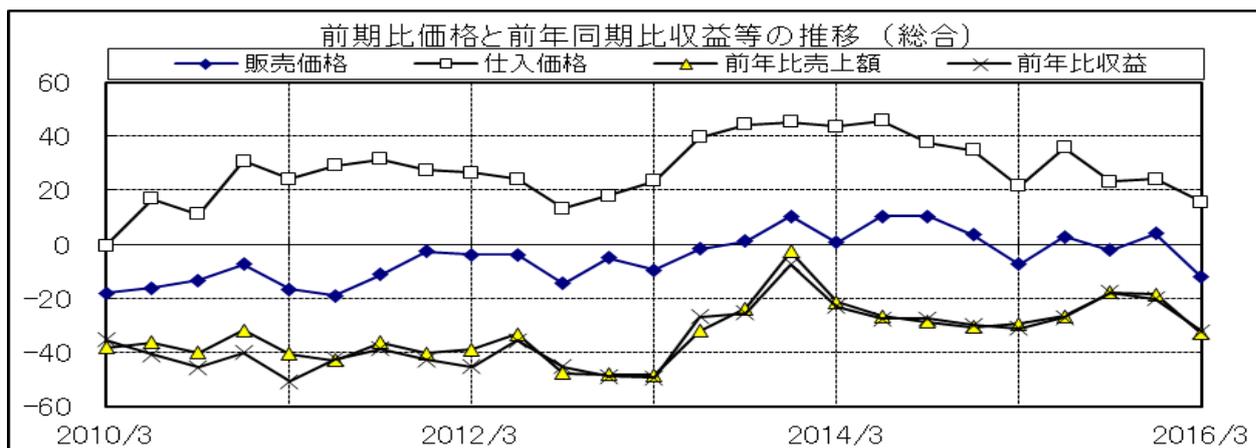
全業種総合の今期の業況判断D. I. は $\Delta 35.2$ と、前期比29.5ポイント悪化した。地区別のD. I. は、高い順に、広尾、三石、浦河、えりも、様似、静内となった。業況判断D. I. は前年 ($\Delta 34.2$) 比では1.0ポイント下降した。売上額判断、収益判断D. I. は $\Delta 43.4$ 、 $\Delta 43.3$ と前期比45.7ポイント、45.6ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

| DI 値 の推移 | 7~9月 期実績 | 10~12月 期実績 | 1~3月 期実績 | 4~6月 期見通し |
|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 販売価格 | -2.2 | 4.0 | -12.2 | 4.2 |
| 仕入価格 | 23.2 | 24.2 | 15.6 | 15.6 |

販売価格判断D. I. は $\Delta 12.2$ と、前期比16.2ポイント下降、マイナス水準に転じた。仕入価格判断D. I. は15.6と、前期比8.6ポイント下降した。販売価格を業種別にみると製造、建設、卸売、小売業で下降し、サービス業では横這いとなった。仕入価格では、製造、建設、卸売、小売業は下降、サービス業は上昇となった。前年比で見ると、販売価格は（前年 $\Delta 7.5$ ）4.7ポイント下降、仕入価格は（前年21.4）比で5.8ポイント下降した。



□ 雇用面の動き

| DI 値 の推移 | 7~9月 期実績 | 10~12月 期実績 | 1~3月 期実績 | 4~6月 期見通し |
|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 残業時間 | -2.8 | 5.2 | -13.9 | -3.4 |
| 人手状況 | -13.3 | -20.9 | -8.7 | -12.1 |

残業時間判断D. I. は $\Delta 13.9$ と、前期比19.1ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断D. I. は $\Delta 8.7$ と、前期比12.2ポイント上昇し、人手不足感が緩和した。

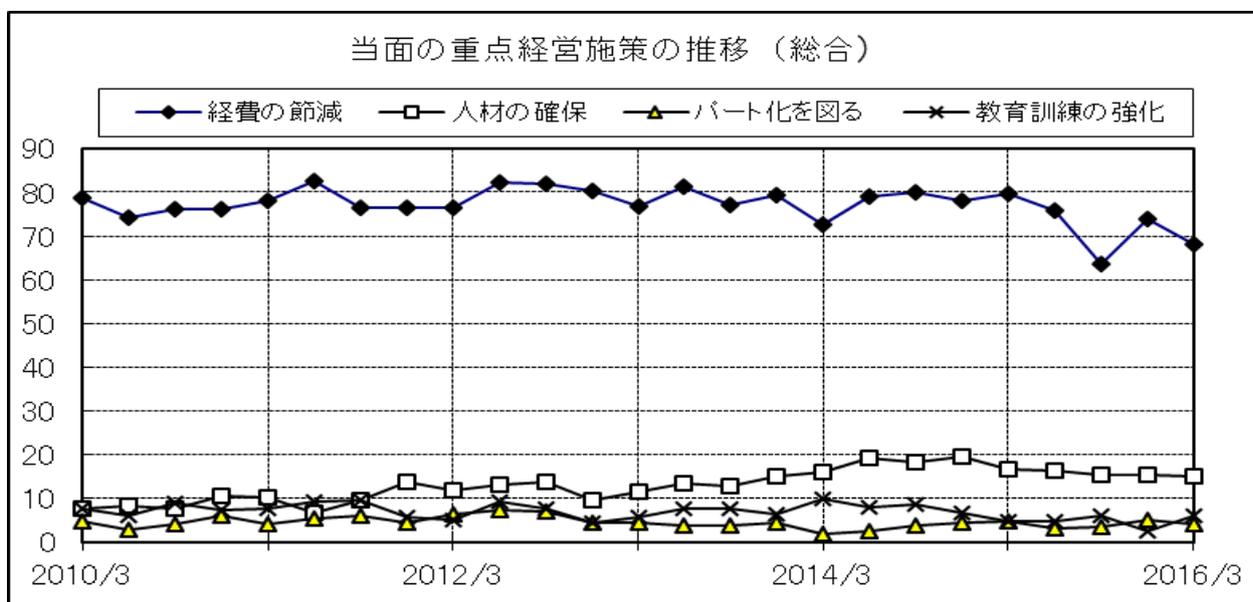
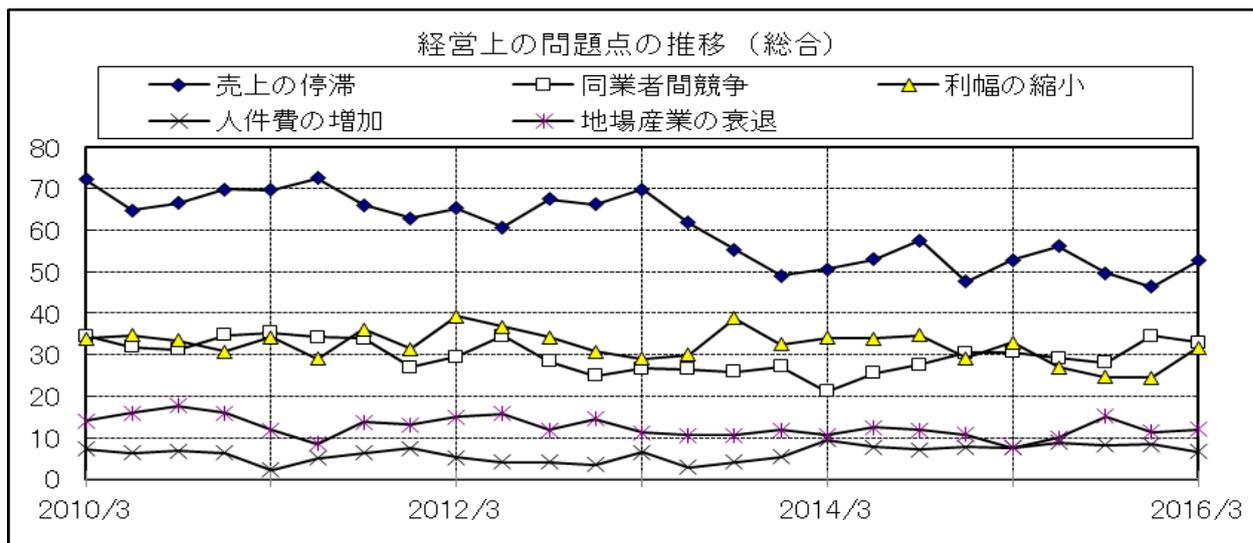
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 8.7$ と、前期比4.6ポイント上昇した。
 設備投資実施企業割合は12.1%と、前期比6.4ポイント下降、前期32社に対し、21社の実施となった。
 来期の設備投資は、22社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が52.7%で最も多く、次に「同業者との競合」32.9%、「利幅の縮小」31.7%、「地場産業の衰退」12.0%と続いた。

重点経営施策では、「経費の節減」が68.1%で突出している。次に「人材の確保」15.1%、「教育訓練を強化」が6.0%となっている。



□ 来期の見通し

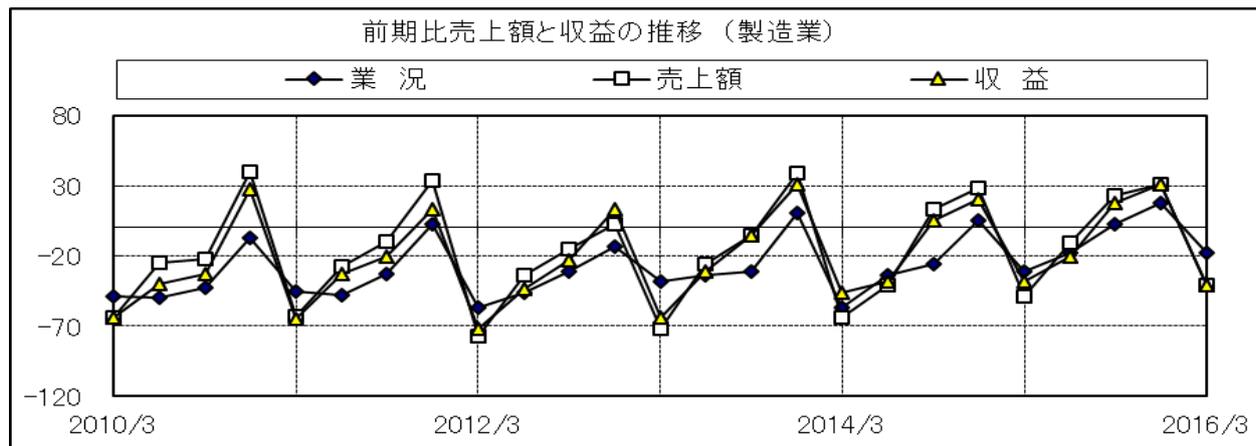
来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 20.2$ と、今期比15.0ポイントの上昇を見通している。
 予想売上額判断D. I. は $\Delta 3.0$ と、今期比40.4ポイントの大幅な上昇を見通している。
 予想収益判断D. I. は $\Delta 8.1$ と、今期比35.2ポイントの大幅な上昇を見通している。
 予想販売価格判断D. I. は4.2とプラス水準に転じ、今期比16.4ポイントの上昇を見通している。
 予想仕入価格判断D. I. は15.6と、今期比横這いの水準を見通している。

製造業 39 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

| DI 値 の推移 | 7~9月 期実績 | 10~12月 期実績 | 1~3月 期実績 | 4~6月 期見通し |
|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 業 況 | 2.5 | 18.0 | -17.9 | -28.2 |
| 売上額 | 23.0 | 30.8 | -41.0 | -10.2 |
| 収 益 | 18.0 | 30.8 | -41.0 | -15.3 |

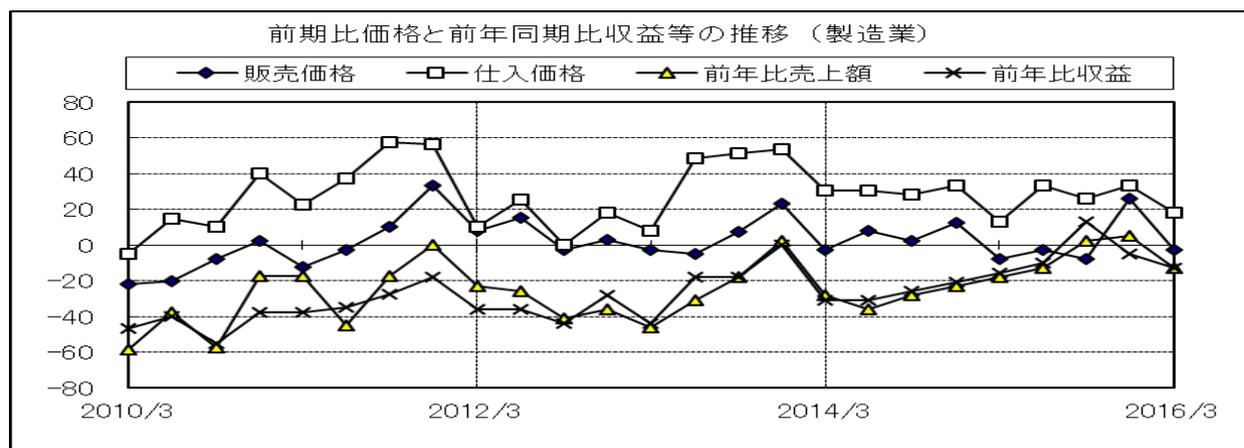
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 17.9$ と前期比 35.9 ポイント悪化した。地区別の D. I. は、高い順に広尾・三石が同水準、静内、えりもと続き、浦河・様似が同率で最も低水準となった。前年 ($\Delta 30.8$) 比では 12.9 ポイント上昇した。売上額判断 D. I. 収益判断 D. I. は、ともに $\Delta 41.0$ で前期比 71.8 ポイントの大幅下降となった。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

| DI 値 の推移 | 7~9月 期実績 | 10~12月 期実績 | 1~3月 期実績 | 4~6月 期見通し |
|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 販売価格 | -7.7 | 25.7 | -2.6 | 2.5 |
| 仕入価格 | 25.7 | 33.4 | 17.9 | 23.0 |

販売価格判断 D. I. は $\Delta 2.6$ と、前期比 28.3 ポイント下降、前年 ($\Delta 7.7$) 比では 5.1 ポイントの上昇となった。仕入価格判断 D. I. は 17.9 と、前期比 15.5 ポイント下降、前年 (12.8) 比では 5.1 ポイントの上昇となった。業種別に見ると、食品は販売価格、仕入価格ともに下降した。一方、木材は販売価格、仕入価ともに上昇した。



□ 雇用面の動き

| DI 値 の推移 | 7~9月 期実績 | 10~12月 期実績 | 1~3月 期実績 | 4~6月 期見通し |
|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 残業時間 | 7.6 | 23.0 | -20.4 | -7.7 |
| 人手状況 | -15.4 | -38.5 | -10.3 | -18.0 |

残業時間判断 D. I. は $\Delta 20.4$ と、前期比 43.4 ポイント下降し残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 10.3$ と前期比 28.2 ポイント上昇、人手不足感が緩和した。

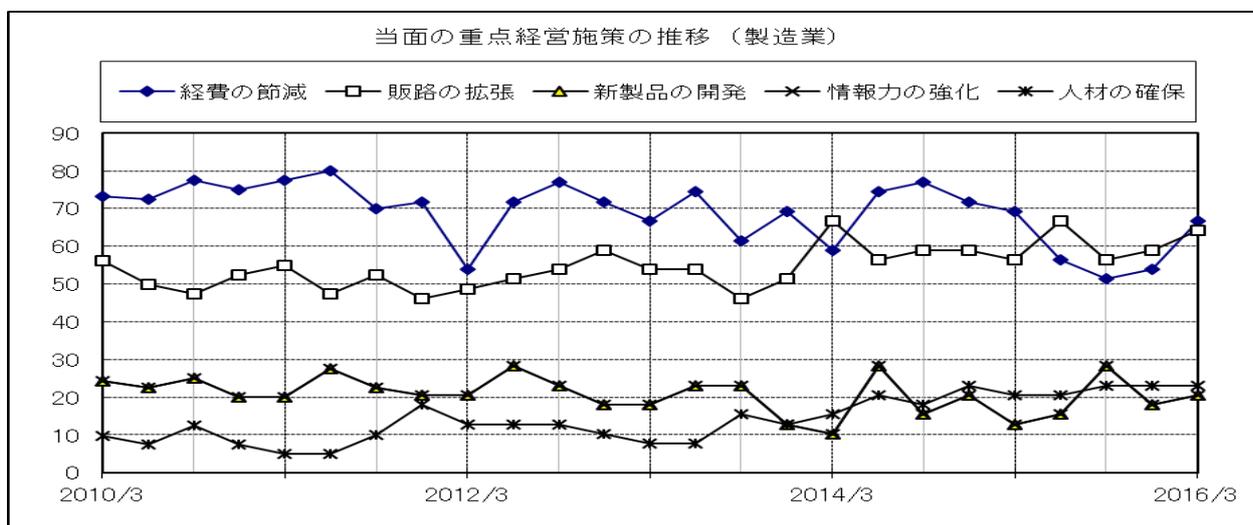
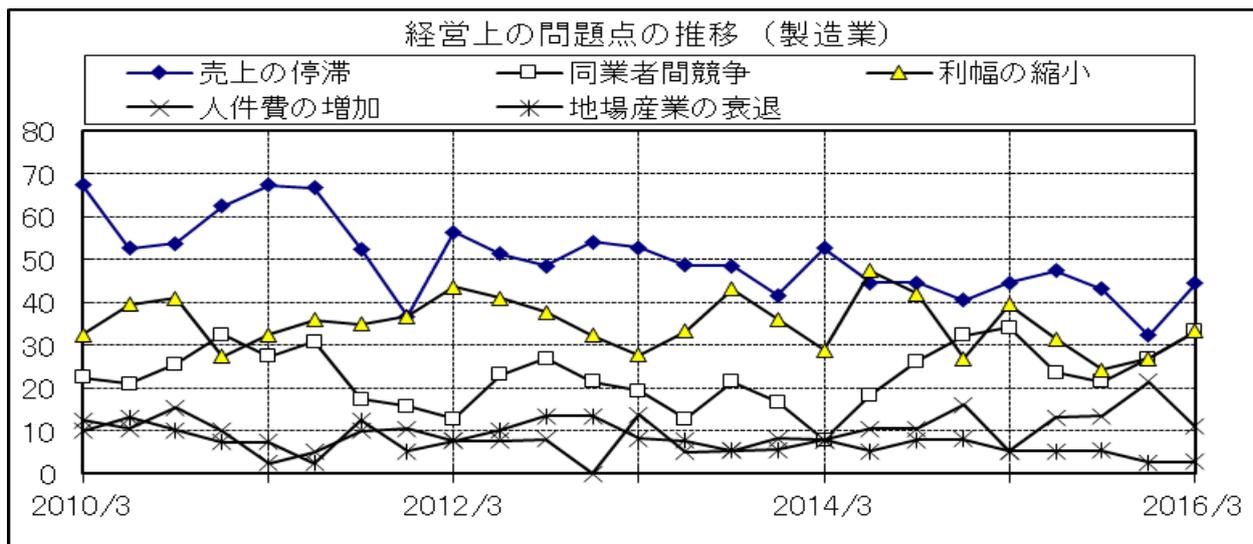
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 7.7$ と、前期比23.1ポイント上昇した。設備投資実施企業割合は17.9と、前期比20.6ポイント下降、前期15社に対し、7社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」44.4%、次に「同業者との競争」・「利幅の縮小」が同率で33.30%、「原材料高」30.6%、「工場機械の老朽化」13.9%と続いた。

重点経営施策では、「経費の節減」66.7%「販路を広げる」64.1%、「人材を確保する」23.1%、「提携先を見つける」・「情報力を強化する」が同率の20.5%で続いた。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 28.2$ と、今期比10.3ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 10.2$ と、今期比30.8ポイントの大幅な上昇を見通している。

予想収益D. I. は $\Delta 15.3$ と、今期比25.7ポイントの大幅な上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は2.5と、今期比5.1ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は23.0と、今期比5.1ポイントの上昇を見通している。